

平成27年度第2回佐賀市立図書館協議会 議事録

開催日時：平成27年12月10日（木）14時00分～15時40分

開催場所：佐賀市立図書館2階 多目的ホール

出席者：（委員） 白根委員、土井委員、松林委員、辻村委員、高井委員、徳永委員、
松永委員、寺崎委員、只木委員

計9名

（事務局） 右近館長、杉町副館長、中島サービス1係長、三好サービス2係長
石丸諸富分館長、原口富士分館長、深川東与賀分館長、
永淵大和副分館長、坂井（本館）

計9名

（傍聴者） 2名

司会進行 皆様、こんにちは。ただ今より平成27年度第2回佐賀市立図書館協議会を開催いたします。今日、木下委員が欠席ですので、9名の委員の皆様にご出席いただきましてありがとうございます。それでは、先ず、図書館長の右近より、ご挨拶を申し上げます。

館長 皆様、こんにちは。足元の悪い中、今日は大変お忙しいところ、第2回目になりますが、図書館協議会にご出席いただきまして、大変ありがとうございます。また、今回、委員の改選ということで新たに委員にご就任いただきまして、これもまた、まことにありがとうございます。この本館は既にご承知かと思いますが、来年20周年を迎えます。丁度、その節目にあたって、今回、この「図書館サービス計画」というものを改定することにしております。7年振りの改定になります。図書館を取り巻く状況は、大変厳しいものがありまして、本館でも年々貸出者数あるいは貸出冊数が減少をしております。今日は、計画の素案をご提示していますが、その辺りの改善が大きなテーマになるのかなと思っています。委員として初めてご就任された方もいらっしゃると思います、いきなりサービス計画の中身を議論してくださいといっても、なかなか難しいところもあるかとは思いますが、日頃図書館について思われていること、そういう率直な意見をお聞かせいただきたいと思います。皆様の議論を参考に、よりよい計画を今後作成していきたいと思いますので、今日はよろしく願いいたします。

司会進行 それでは続きまして、皆様にお渡ししております次第をご覧ください。一番目に委嘱状の交付ということで、委嘱状をお渡ししたいと思いますが、時間の都合上、大変申し訳ございませんが、今回、委員になられた皆様にも、館長から委嘱状をお渡ししたいと思います。再任された委員の皆様におかれましては、机の上の封筒に委嘱状を入れてお渡ししておりますので、ご確認をお願いいたします。それでは、

委嘱状を交付させていただきます。

(委嘱状交付)

司会進行 続きまして、次第の2になります。委員の紹介と職員の紹介ということで、館長から紹介申し上げます。

館長 お手元の次第の裏に委員名簿を載せております。この名簿の記載順にご紹介いたします。まず、土井委員様です。土井さんは学校教育関係で就任いただいております。次に、社会教育関係から松林委員です。同じく社会教育関係から辻村委員です。次に学識経験者として、高井委員。同じく、学識経験者として、白根委員でございます。次に公募委員として、徳永委員です。同じく松永委員です。次に、寺崎委員です。木下委員が今日は欠席です。それから、只木委員です。よろしく願います。次に、職員の紹介をしますが、まず、サービス2係長の三好です。副館長の杉町です。それから、庶務係の坂井です。それから、分館の分館長が出てきていただいておりますが、公務で3名の分館長が欠席です。今日来ている分館長をご紹介いたします。富士館の原口分館長です。諸富館の石丸分館長です。東与賀館の深川分館長です。それから、大和館の永渕副分館長です。一番後ろにサービス1係の中島係長です。以上のメンバーで今日は対応させていただきます。

司会進行 続きまして、新しく会長と副会長を選任しなければいけませんので、私の方で進行をさせていただきます。会長、副会長は委員の互選により定めるとなっておりますので、どなたか、立候補または推薦される方はいらっしゃいますでしょうか。

司会進行 無いようでしたら、事務局の案でお願いしてもよろしいでしょうか。事務局の案は会長に白根委員、副会長を土井委員にお願いしたいと考えていますが、いかがでしょうか。

委員一同 はい。

司会進行 よろしいですか。

委員一同 はい。

司会進行 ありがとうございます。それでは、異議はないということですので、会長、副会長は恐れ入りますが、前の方の会長、副会長の席に移動していただいでよろしいでしょうか。

司会進行 ありがとうございました。それでは、議事に入っていただきたいと思いますが、議事に入ってください前に、会長さんからご挨拶をよろしく願います。

会長 就任したばかりですが、会長という大役を仰せつかることになりまして、ちょっと緊張しております。実は、どなたか、立候補していただけないかと期待を持って臨んでいたのですが、本当に僭越でございますが、委員に就任したばかりで会長を務めさせていただきます。どうぞよろしく願います。佐賀市立図書館には、学生が実習に伺ったり、それから、卒業生も何人も職員として採用していただいておりますし、日頃から、資料を利用させていただいたり大変お世話になっておりますので、非力でございますけれども、何かこの図書館協議会を通じてお力になれることがあればと思っております。どうぞ、よろしく願います。

会 長 では、次第に従って進めて参りたいと思いますが、最初に、前回協議会の報告について事務局より説明をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

事務局 前回の議事録については、お手元にお配りしているとおりです。それを要約したものを、今日、A4の横で1枚お渡ししているものがあります。これで、簡単に報告をしたいと思います。これは、前回の会議での主な意見を記載しております。それについて、今後どのように対応していくのか、あるいは、サービス計画の中で、どこでどのようにするのかを書いたものです。順を追っていきますと、まず、1番、2番は本に興味が無い人とか図書館に来ない人をどのようにして引き込むかが課題ということで、対応としましては、ニーズに対応した情報の提供ですとか、ホームページの充実や電子書籍の検討といった ICT 技術による利用促進などの対応をしていきたいと考えています。具体的には、「施策名」の欄ですが、これは後でご説明しますが、「基本目標2」に記載をしています。それから、3番目、本を読まない人の意見とかアンケート結果を知りたいということですが、これは市民アンケートでの図書館に来ない人のアンケート回答をまとめたものを、今日お配りしております。1枚、表裏あると思いますが、机上にお配りしているものです。「市民アンケート結果」ということで、未利用者意見、これは「読まない人」の意見ではなく、「来ない人」の意見として、どのような意見があったかということ、自由意見の欄では、「館内の環境・設備」については、子どもが本を読める広い部屋があったら良いとか、市立図書館はうるさいというイメージを変えて欲しいとか、あるいは、武雄の図書館のように喫茶店があれば行きたいといった意見をいただいております。「その他」では、気軽に入れる特長のある図書館にして欲しいとか、1階のレストランには食事によく行くので、図書館にも寄ってみたいなどの図書館を利用されていない方の自由な意見ということでご紹介をいたします。最初の資料に戻っていただきまして、意見一覧表の中になります。次の4番目の意見として、アンケートの結果を施策に生かして欲しいというような意見がございました。アンケートというのは、サービス計画をつくるための市民アンケートのことですが、今後については、利用者アンケートを毎年とっておりますので、その結果を見ながら、自己評価をするようなシステムを検討したいと考えています。それから、5番目、子どもサミットなどを実施したらどうかという具体的な提案がございました。これらについては、「基本目標1」で読書の楽しみを伝える取り組みの1つとして、今後、するしないは、まだはっきりと明言できませんが、その中で検討をしていくようにしております。6番、7番については、若い人たちが来やすいような環境整備ということで、ヤングコーナーの再整備を考えたいと思っております。それから、児童コーナーの充実ということで、職員の待遇のアップや人を増やすというご提案でしたが、雇用条件の独自での変更は難しいものがございますので、今のところはそれは非常に難しいと思っております。それから、休館期間とか、開館時間の繰り上げ、繰り下げについては、これも、財政状況を見ながら、今後、見直しを検討していきたいと思っております。それと、学校図書館との連携についても、さらに強化を図ってい

きたいと思っております。それから、裏のページをお願いいたします。ホームページの充実ですとか、他の団体の主催行事をホームページでPRしたら良いのではないかというご意見です。広報活動については、今後もさらに充実をしたいと思っておりますし、地域からの情報発信ということで、図書館のホームページにリンクを貼ることもできますので、そのようなことを今後、さらに詰めていきたいと思っております。4番目、これも乳幼児向けのおはなし会を開催すればということですが、これも、するしないは別にしても、読書の楽しみを伝える取り組みを検討したいと思っております。5番、6番は先ほどと同じ意見ですが、休館日や利用時間の見直しを検討していきたいと思っております。このページに記載しているものは、後日、メールでいただいた分です。前回の会議でいただいた大まかな意見としては以上のとおりでございました。

会 長 ありがとうございます。この件につきまして、委員の皆様方、何かご意見やご質問がございますでしょうか。

委 員 概ね、このような意見が多かったと思います。前回参加しておりましたけど。

会 長 よろしいでしょうか。特に、ご意見、ご質問等が無いようであれば、次の議題に移らせていただきたいと思いますと思いますが、よろしいですか。

委 員 はい。

会 長 では、2番目の「佐賀市立図書館サービス計画の素案について」ですが、これは、内容にボリュームがありますので、第1章、第2章を前半、第3章、第4章を後半と2部に分けて協議を行っていただきたいと思っております。それでは、第1章と第2章について、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局 それでは、「佐賀市立図書館サービス計画の素案」について、ご説明をします。事前に素案をお配りしていましたが、4章での構成になっております。第1章が「計画の策定にあたって」ということで、計画の位置づけを記載しています。それから、第2章が「現状と課題」、第3章は「基本理念・基本方針」、第4章は「具体的な施策・事業」、それから、最後の方に市民アンケートの結果と今回は付けておりませんが、佐賀市立図書館の条例と施行規則をつける予定にしております。最後に付けております市民アンケートの結果ですが、前回お渡しした資料と内容は変わっておりません。用紙の方向が、以前は横型式だったものを縦型式に修正しただけです。4ページの第1章ですが、「計画の策定にあたって」ということで、計画の位置づけを記載しています。前回協議会の中で、サービス計画が上位計画である「佐賀市教育振興基本計画」を踏まえて策定するとご説明しましたが、その位置づけを記載しています。後の18ページにも出てきますが、「基本理念・基本方針」の中でもこの関係性には触れております。そして、前回協議会の中で指摘をいただきましたが、「佐賀市教育振興基本計画」の中の図書館に関する項目の部分を抜粋して、別に資料として作成をしております。その中に、基本方針ですとか、前回、「縦軸」、「横軸」と申し上げましたが、それらについて記載されていますので、別紙でお渡しをしております。それから、5ページ以降が、第2章の「佐賀市立図書館の現状

と課題」になります。これにつきましては、前回お配りした資料、A4 横長の 4 枚の「佐賀市立図書館サービス計画の概要」とほぼ同じ項目の構成になっております。

「サービス目標」ですとか「市内全域へのサービス」などの項目がありまして、それぞれについて、現状と課題を載せています。前回資料の「佐賀市立図書館サービス計画の概要」にありました項目については、基本的にはそのまま載せています。一部、内容が被る部分がありましたので、その部分については、整理、統合をしています。前回資料の「サービス計画の概要」に箇条書きで記載していたものを文章化して、より分かりやすくするために表やグラフも掲載をしております。「サービス計画の概要」に掲載していました取組方針につきましては、第 4 章の「具体的な施策・事業」の中で記載をしています。この「佐賀市立図書館の現状と課題」につきましては、記載内容は前回お配りした資料の内容と基本的に変わっておりませんので、全ての説明をしません、8 ページの下の児童貸出数の推移のグラフは色が分かりづらくなっておりまして、ご説明をしますが、上の方から、「児童絵本」、上から 2 番目が「児童文学」、上から 3 番目が「児童知識」、一番下が「紙芝居」の順番になっております。

会 長 ありがとうございます。この件につきまして、委員の皆様より、何かご意見、ご質問はありませんでしょうか。

委 員 購入冊数とか、予算の推移とか、少なくとも図書購入予算の推移とかそういうのは出てこないのでしょうか。

会 長 事務局の方から、ご回答をお願いいたします。要覧等を見れば載っている数字ではありますよね。

事務局 要覧には載っていますが、この素案の中には載せていません。

事務局 実は、そこを載せようかと迷っているところです。決算の推移とか、購入冊数とか購入金額もあるのですが、そこは、載せた方が全体的に分かりやすい気がしますので、そこは載せるように。

委 員 多分、予算カットになりつつあるのではないかと思って。

事務局 図書購入費が今、5,000 万円を切っているのですが、多い時は 1 億円以上あって、最初の頃ですが、それから 8,000 万、7,000 万、今は 5,000 万円を切っています。

委 員 何が言いたいかというと、うちの会社もどんどん予算がカットされていますので、一律カットされる項目がたくさんあるのです。正直、予算は減っていますと、その中でどのような将来像を描きましょうかのような話をした方が実があるのではないかと思います。

事務局 分かりました。載せるように検討します。

会 長 貴重なご意見ありがとうございます。確かに、蔵書の充実具合がサービスに大きな影響を与えるというのは間違いないことだと思います。予算が潤沢にあって、新しい資料が入ってくれば利用が伸びるという相関関係があると思いますので、とても大切なご指摘だったと思います。ありがとうございます。他に何かご意見はありませんか。

委員 「サービス計画の素案について」ということなので、サービスについてご提案したいことがあります。例えば、サービス計画素案の 12 ページ、「インターネットサービス」のところ。ここは市立図書館のホームページを利用する、充実させるという視点からの記載のみなのですけれども、先ほどから若い人の関心をどう図書館に持ってくるかということもございまして、ツイッターやフェイスブックのように広く浸透した既存の IT インフラもございまして、こちらで情報発信していくというのは、準備もほとんどかかりませんし、予算もかかりません、時間もかかりませんので、私も文化振興課の佐賀市民芸術祭はフェイスブックページ作った方が良いでしょうということで、一緒に作った経緯があります。今年はいぶシェアとか利用者の方もしてもらって、広がりが見られているところです。若い方にはツイッターやフェイスブックの何が楽かという、フォローするだけで情報が勝手に自分の手元に流れてくるという気楽さです。ホームページのようにここまで来てくださいというのは、なかなか最初のハードルが高すぎて、ツイッターのようにフォローするだけという気楽さが良いのではないかと。民間企業でも、公の施設でも、ツイッターのアカウントをとっているところは非常に多いという印象がございまして、検討の価値はありますし、若い職員の方の中でも使えるものかなと思っておりますので、SNSの利用を一度、検討していただきたい。もう一つが、教育振興基本計画の 18 ページの「自ら学ぶ生涯学習の推進」のところですが、生涯学習支援という図書館としての機能を持つておきたいというときに、聞きなれない言葉の難しさがあると思われまして。例えば、一般の方に図書館側から「レファレンス」という言葉は使われないにしても、どういったことを聞きたいのかというときに、お歳を召した方であれば「図書館の案内係」だとか、若い方だと「図書館インストラクター」という言い方が聞きやすいということがありまして、誰に声を掛けて良いのかが分かりやすい名称で考えられないかとよく思うのです。窓口にいらっしゃる方には貸出とか予約に関しての話はできても、本のある場所まで連れて行ってくださいと言って良いものかというところがございまして、声掛けのハードルを下げたための、話し掛けやすい肩書や名称がなくて良いのかというのがあります。声掛けしやすい環境づくりをサービス計画のどこかに一言入れればありがたいと思っております。

会長 ありがとうございます。最近、「コンシェルジュ」という人がいる図書館も増えてきましたけれども、もっと誰でも分かるような言葉、それと、今も置いているところがあるかもしれませんけれども、「案内」というセクションを作って、そこで取りあえず色々な質問を受けて、割り振るみたいな、病院でいいますと総合案内みたいな役割の人を置いている図書館もありました。今も置いているところがあるかと思いますが、そういうカウンターが別にあると聞きやすいかもしれないですね、人手が必要だとは思いますが。利用者の視点から、貴重なご意見をいただいたと思っておりますが、何か事務局の方からこのことに関してありましたらお願いします。

事務局 案内は土・日は1階のところに置いているのですが、平日は人員の問題で置けないですが、確かに、アンケートでも、今まで利用されていない人からはそういう人がいけば行きたくなるという結果も出ています。図書館を利用している人には、図書の充実などが多いのですが、利用されていない人にも、図書の充実という回答もあります。次に案内というのが割と多く回答をいただいていますので、利用したことがない人については案内がいれば来たくなるのではないかと、アンケート結果からは言えますので、その辺りは計画の中で位置づけはするのですが、実現するとしたら、非常に難しい問題ではあります。人の問題もありますので、俎上には載せたいと思います。

委員 案内の仕方ということです。人員配置という意味ではなくて、話し掛けやすい名称にさせていただきだけです。

会長 何か良いアイデアがありましたら。

委員 書架を整理されている時に腕章とかに「質問受けます」とか、「質問してください」と書いてあると、とても質問しやすいです。

委員 金がかからなくて良いですね。

委員 手が離せない時には、腕章をとれば良いのです。

会長 元司書の立場で言いますと、カウンターについている時には、「この本どこにありますか」ということは聞かれないけれども、書架整理をしているとよく聞かれるというのは、司書の方であればご経験があると思います。だから、聞きやすい雰囲気というのも必要ですよ。図書館の職員だとはっきり分かるようなものをつけておけば良いということでしょうか。

委員 多分、書架整理の時には、書架整理をされているので声を掛けてはいけないと思われる方が多いのではないかと。声を掛けて欲しいし、声を掛けられたら案内されるというのは利用している人は知っているのですが、初めての人にハードルがあるということです。

会長 そうすると、初めての人にも、ここに聞けば良いという場所があった方が良いような気もいたします。貸出カウンターとは別に、聞きやすいような、ちょっとしたコーナーに人がいるという雰囲気を作っておけば、良いのでしょうか。

委員 案内板に一言、「図書館のスタッフには、どなたでもお声掛けください」と、どこかに一行書いてあると、とても気が楽になるのと思います。

委員 私は、かなり気が小さくて、聞きたくても聞けない性質なのですが、最近、市役所に行くとき色々なところに女性が立っていらして、ちょっとでも迷っている素振りを見たら近寄ってきてくれるのです。本当であれば、何課に行かなければいけないかを知っているのが大人の常識なのですが、向こうから、声を掛けていただけて、それはすごく助かります。ここの図書館を利用して、色々図書館のことを分かってきても、本を整理している仕事に声掛けしてはいけないのではないかと、カウンターに人が並んでいるときには聞きにくいとか、それなら自分で行ってしまおうと。カウンターの中にも、窓口に立たれている奥にも何人もいらっし

やるのですが、その方々も注意してお声掛けいただければ、大分違うのではないかと思います。例えば、「案内」と書いてあっても、私のように気が小さいと、声掛けしづらいということもあると思うので。でも、市役所の方々は、よく声掛けられていて、常に適切な窓口案内していただいて、最近、行きやすくなったなと感じます。

会長 ありがとうございます。「コンシェルジュ」といわれるような働きをなさっている方ですが、市役所にはいらっしゃるということですね。熊本の森都心プラザ図書館にコンシェルジュという方がいまして、近づいてきて「ご用件は」とか、向こうから声を掛けてくれます。そういう人が置ければ、それに越したことはないけれども、置けない状況ですと、例えば書架整理をしている時に、声を掛けにくいように必死で書架整理をするのではなくて、少し周りを見ながら、困っていそうな人がいたら、職員の方が声を掛けるような余裕が持てると良いですよ。利用状況が非常にハードだと、そういう余裕が持ちにくいという状況もあるかとは思いますが、司書として周りの利用者の様子に気を配って必要なフォローをするというのはとても大事なことはないかと思います。コンシェルジュが置ければ越したことはないのですが、努力をしていただきたいなと思います。他には何かご意見、ご質問等無いでしょうか。

委員 職員の方という目線ですと、人員配置などの問題が出てくると思うのですが、某ショッピングセンターなどでは、一般のお客様の店長さんをつくるなどしています。一般の方の目線ができるスタッフの方がいるというのは、どうでしょうか。自分たちと同じ目線で見えるスタッフがいるということは、声を掛けやすいのではないかと。職員の方であれば、自分より上という見方をするので、なかなか、取っ付き難いのです。児童コーナーには、行事に参加して、自分の意見を言う子どもさんもいますので、例えば、防犯面で心配な面もあるので、募集をかける際に、学年を高学年にするなどして、「こども館長」も面白いのではないかと。そうすると、子どもが子どもを呼び、子どもが親を呼び、親が友達を呼びということで、色々と広がって行くのではないかと。もっと、「遊びに行こうよ図書館に」みたいな、流れができて楽しいのではないかと。図書館は「勉強する場所」だけではないと思うのです。子どもがこれから育っていく中での「情操教育の場所」という面もあるので、図書館は勉強しに行かなければならないので、遊びに行く場所ではないのだと思って、足が遠のく。それよりも、何か自分も居場所があると思えば、子どもも、どんどん寄って来るのではないかと。例えば、おはなし会をされている方がいらっしゃいますが、その中に子どもも参加したりなど、参加型も楽しいのではないかと考えていたのです。そういうことも、できるのではないかと、ご提案させていただきました。

会長 ありがとうございます。大変貴重なご意見だと思います。子どもも含めた、既存の言葉で捉えると一種のボランティアみたいな形で、「子ども司書」や「子ども読書サポーター」などされているところもあります。大人の方もボランティアの方

に図書館の大まかなことを答えていただいたり、案内係をお願いすることなども可能なのかもしれないですね。色々と工夫次第で、何とかなるのではないかという感じがします。ありがとうございました。他には何か。

委員 サービスの成果というのは数で判断されると思うのですが、それはそれで大切なことだと思いますが、例えば、司書の方が子どもに対して、絵本を読んであげたり、児童書の紹介をしてあげた時の子どもの反応によって、図書館の蔵書がそれで良いのか、どのような本があった方が良いのかという判断をされているのでしょうか。

会長 図書館では、おはなしの時間の記録などは取っておられるとは思いますが、そこをうまく活用して、ということになりますでしょうか。記録は取っていらっしゃるよ。その記録をもう少し整理して、選書に活かせるようなシステムがあったらということですね。ご検討いただきたいと思います。

事務局 おはなし会をしたスタッフの記録として、子どもの反応まで記録しております。委員が言われる、それを選書に活かすところは、それぞれのスタッフが直接本を選んでおりますので、読んだ際の子どもの反応を見て、それを選書に活かしている形ではあります。

会長 よろしいでしょうか。今のお答えで。もっと、具体的に何か、それが分かるような形があればということでしょうかね、難しいかもしれないですが。ありがとうございました。他には。無いようでしたら、残りの第3章と第4章について、事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局 資料の18ページをお願いします。まず、「基本理念・基本方針」につきましては、前回、館長から説明をしていますが、簡潔に説明をしたいと思います。「基本理念」につきましては、現計画での「市民と共に育つ図書館」を基本理念としておまして、それに、さらに、「自己変革」がキーワードになるのではないかと思います。2番目の「基本方針」ですが、上位計画の教育振興基本計画の「ふるさと『さが』を協働でつくる個性と創造性に富む人づくり」を踏まえまして、いわゆる、「縦軸」・「横軸」の部分ですが、図書館としましては、「縦の接続の推進」として、市民の方が生涯学習するにあたっての資料の収集や市民ニーズに沿った運営、「横の連携・協働」については、地域づくり、人づくりの部分での教育・学習活動の支援をしていきたいと考えています。先ほど、「現状と課題」を見ていただきましたが、それを踏まえて、4つの方向性を考えています。1番目が「子どもの成長や心豊かな人づくりに役立つ図書館」、2番目に「情報や交流の拠点として市民に役立つ図書館」、3番目が「地域づくりに役立つ図書館」、4番目が「市民と共に変革を進める図書館」と4つの方向性を定めています。今の計画が、「地域の情報拠点」、「生涯学習の拠点」、「市民の交流の場」ですから、ここも踏まえて、4つの方向性で進んでいきたいと考えています。具体的には20ページからになります。各基本目標につきまして、「施策の方向」、「施策の内容」、「具体的な事業」という形で整理をしています。まず、「基本目標1」ですが、子どもの感性や人間性を育む読書活動の支援をしていきたいとしています。具体的には、読書の楽しさを伝えていかないと

いけないと思っていますので、「あかちゃん絵本ガイドブック」を図書館で作っていますが、ボランティアの方と一緒に検討を行うことなどを考えています。それから、ライフステージに応じた「おすすめ本リスト」ですが、今、小中学生向けに、この「おすすめ本」のリストを作っていますが、他にも、シニア向けですとか、子育て中の方、若い方の就活に向けたおすすめ本などができればと思っています。真ん中に、前回、ヤングコーナーの話もありましたが、若者対策として、コーナーの再整備を含めて考えていきたいと思っています。一番下ですが、学校図書館との連携ですが、前回、話に出てきましたが、新刊の整備・充実を図書館側も行わないといけないと思っています。次に 21 ページです。方向としては、「多角的な学習支援」としています。施策内容の一番上の「課題解決」ですが、今、図書館でもデータベースの講座などを行っています。新聞、法律、経済情報が無料で使えるということを知られていない部分もありますので、市民自らが課題解決するための調べ学習にも力を入れていくべきだと、今も行ってはいますが、更に力を入れていきたいと思えます。その下ですが、職員が全てレファレンスを行えば良いのですが、自分で課題を解決するために本を探したり、データベースを使ったりなど、利用者自らが調べる力を育てる取り組みも必要ではないかと思っています。下の方の具体的な事業のところに「調べるコンクール」の開催を書いています。これは新しい事業として行っていきたいと考えています。一番下の成果指標ですが、「若者の利用率」が、今は 6.5%程度しかありませんので、人口比率では 10%ですので、10%までは上げていきたいと考えています。続きまして、22 ページの「基本目標 2」です。「住民ニーズに対応した情報の提供」をしていきたいと考えています。それから、広報活動のレベルアップやホームページの件、一番下に SNS を活用した情報発信を入れています。システム更新に合わせてホームページをもう少し充実させていきたいと思っています。そして、一番下の「ICT 技術による来館しない層への利用促進」。これは、研究になってくると思いますが、電子書籍がどのような方に必要か、来館しなくても図書資料が利用できる環境が魅力的な部分がありますので、費用面など、メリット、デメリットを研究していきたいと考えています。次のページの 2 番目ですが、交流という部分で、「誰もが楽しめる場の提供」です。これは予算的な部分が出てきますが、先ほど出ていました「案内」にも関わりがあるのですが、図書館でも交流ゾーンの見直しを考えていたのですが、予算的になかなか厳しいものがございまして、先ほど職員の声掛けで対応すれば良いというお話もいただいて、私も巡回をしていく中で、何回か声を掛けられます。そういう場合には、レファレンスコーナーに案内をして、つないだりすることもあります。そのような既存の部分でお客様が話し掛けやすい部分を作っていくかといけないと思っています。次に 24 ページです。これも、今後取り組んでいかなければならない部分ですが、資料の充実だとか地域からの情報発信です。図書館を利用される際には、図書館の主催事業でなくても、本当は図書館のホームページに載せた方が良いのですが、なかなかそこまでは手が回らないので、できれば、他のところでホームページに掲載していた

だいて、そこにリンクして情報発信するという形での地域からの情報発信ということで載せています。次に 25 ページの「市民ニーズに対応した課題解決への支援」ですが、レファレンス機能のことです。この部分につきまして、市民アンケートの中で「調べものや図書館資料案内の充実」を 79 人の方が希望されておりました。ですから、この部分につきましても、今回、もう少し力を入れていかないといけないと思います。その下の「地場産業の情報発信の場の提供」ですが、今も少しビジネス支援で紹介をしていますが、地場産業関連の紹介とか展示、情報発信を行っていきたくて考えています。下の成果指標ですが、レファレンス件数の目標値が 22,500 となっていますが、5%増加ではなくて、15%増加の間違いですので、訂正をお願いします。最後に 26 ページですが、「市民と共に変革を進める図書館」、なかなか難しいことですが、このような気持ちを忘れないことが大事だと思っています。一番大事なのが、ここに記載しています、「効果的・効率的な蔵書の構築」、要するに、長期的視点をもって計画的に蔵書の収集を行うことで、委員さんから最初にご意見いただきましたように、予算が厳しい中で、どのような資料を整備していくかが重要になってきますので、本館、分館、分室の役割分担とか、また、県でも児童書を買われたりしますので、それを有効に使わせていただいたり、アンケートの中で新刊や話題の本や DVD などの資料の充実の声もありましたので、図書館としても、市民ニーズと図書館の考えをどのように整理していくか、例えば DVD やマンガの必要性を検討しなければいけないと思います。下の方には、自己評価とか第三者評価もあげさせていただいています。最後に、休館日、利用時間の見直しについて書いておりましたが、今後検討をしていきたくて思っております。最後、27 ページの一番上ですが、「市民とのパートナーシップを推進し、市民と共に作る図書館づくり」を目指します。これに一番大事なのが、ボランティアの方とか市民の協力だと思っておりますので、そのためにも、ボランティアの方の養成を更に進めていく必要があると思っております。アンケートの中に配架のボランティアとか、本の修理のボランティアをしたいという方も半数近くいらっしゃいましたので、ボランティアの方の図書館としての活用を進めていきたくて思っておりますし、具体的事業の一番下に、図書館ボランティアの交流会の実施など、広くボランティアをしていただくために必要かと思っておりますので、このような項目も入れさせていただいています。最後に、一番下の成果指標です。59.2%、これは教育委員会の調査の数値です。図書館の利用者アンケートでは 89%と高いのですが、これは、充実していると思われる方が 6 割くらいしかいないので、これをもう少し 64.2%まで上げたいと思っております。ただ、今回、実施した市民アンケートの結果として 7 割の方が満足しているという結果はでています。

会 長 ありがとうございます。この件につきまして、委員の方からご質問、ご意見はありませんでしょうか。

委 員 先ほどもおっしゃられたのですが、図書館に来るということですが、コンセプトとして考えますと、大人であれば自宅と勤務場所、ファーストプレイスとセカンド

プレイスがあって、学校に通っている子どもたち関すると自宅がファーストプレイスで学校がセカンドプレイスなのですけど、サードプレイスが欲しいと。自宅と学校以外、自宅と勤務場所以外の場所で心がホッとして、落ち着ける場所があるということが非常にリラックスにつながると。結局それが、先ほどおっしゃられた、「居場所」だと思うのです。それが重要なところは、第4章に具体的に示されていたので、大変すばらしいなと思ったのです。おそらく、図書館の一番の人気コーナーは囲碁将棋のコーナーだと思うのです。あそこはまさにサードプレイスになっている訳です。ヤングコーナーが今後そういう場所になっていけばとても良いのだろうと思います。特に若者の事を考えてくださって、交流する場所も考えていただいているので、サードプレイスとしての図書館としての在り方というコンセプトがあるというのは、もっと堂々と打ち出されても良いのかなと、折角ここまで素敵プランをしてありますので、それを感じたので、一言申し述べました。

会 長 ありがとうございます。

員 私を受験の頃ですから、大分前の事なのですが、私たちの受験勉強の時は、図書館でするのがすごく流行っていて、席を取るためにみんな走って行くような状況だったのです。今、学習室がありますが、一見半分くらいしか人が入っていないように見えても、隣に人がいたら座りたくないの、一席空けて座るとなると、今、満員の状況ではないかと思うのです。私も営業と営業の間に資料でも揃えたくて、利用してみようと思って来ても、なかなか席が空いていない。今、ファミリーレストランなどで受験勉強している子たちがいますが、実際はしゃべって勉強していない。図書館で勉強していたころは、会話するという雰囲気はなくて、勉強しかできない感じだったのですが、あの頃は、自分の周りは図書館に行くのが当たり前みたいなところがあって、でも今は、来ても中で勉強してはいけないという状況があるなら、もう少し、ヤングコーナーのグループ学習というところがありますが、もう少し学習室を広くとってみると利用者も増えるのではないかと思うのです。そこを利用したければ図書館のカードを作らないと利用できないとしてしまうと、カードの登録者も増えるし、カードがあれば折角だから下の方も利用してみようとか、学習室があまりにも狭くて、折角あるのに、使えないみたいな、もうあきらめています、今では、どうせ、人が一杯いるだろうと。アバンセの方にもいくつかテーブルがあったりするのです、そちらを使用している人たちもいるのですが、こうやって、みんなの拠点になるような図書館ということであれば、学習室は実はもっと、人を集める、それも若い層を集める力を秘めているのではないかと。それと、前回、小学生にここの図書カードと各学校の図書カードを共通させるのはどうだろうということ話した時は、カードを失くす子どもがいるから難しいということだったのですが、学校の図書カードで、こちらのシステムがどうなっているのかは分かりませんが、例えば手打ちで入れるとか、横のつながりとか、子どもの今後のという文言が出てきているのであれば、折角つながっているのであれば、どうしてもその辺を利用しないのはもったいないと思うのです。だから、物理的に、うちの子どもも、

よく物を失くす子どもでしたから、確かに図書カードを作って失くしたらまたかとなるだろうと思うのですが、そこを何とかクリアする方法があれば、子どもたち、若い層の利用人数は手っ取り早く数が稼げるのではないかと思います。

会長 ありがとうございます。学習室だけの利用にならないように、図書館の方からうまく、学習室と資料の利用をつなげることが非常に重要になってくるのではと考えながら聞いておりました。一時期、図書館というのは勉強する場所ではないということで、受験生が追いやられるような時期もございましたけれども、勉強のためであれ、来てくれている訳だから、その人たちを上手に図書館の資料を利用する、情報を利用するような方向につなげていくという努力をすれば、非常に学習室も良い集客になるのではないだろうかと思います。それと、学校の貸出カードと公共図書館の貸出カードとを一本化するということは以前の会議でも出て、それは今の段階では無理だということだった訳ですね、そのことについては、もう既にお答えになっているかもしれませんが、事務局の方から、何かご回答があればお願いします。

事務局 システム的には、今のままでは、もちろん共通で使えませんので、図書館システムも再来年度くらいには入れ替えなければいけないので、その時に対応できるのかどうかですが、子どもはライトでなくても良いと、学校の図書カードで手打ちで入力できるようにすれば、それで使えますので、何の本を借りているのかという記録もないのですが、そこはできるかどうかは分かりませんが、子どもさんにとっては、学校の図書カードで本を借りられますので、便利にはなるのですが、感覚的にいうと、図書館カードを持っていないから図書館の本を借りられなかったというのは私はあまり聞いたことがないので、別の方法で子どもたちの利用を促進した方が良いのではないかと思います。いずれにしても、システムの入れ替えの時に、学校図書館との連携を充実するというようにしていますので、どういう形で充実できるのか、委員さん意見を踏まえて、考えていきたいと思えます。

委員 今、カードは一緒にはできないということだったのですが、前任校で、分館からカードを作っていたいただいて、子どもたちはブーカスが来ていまして、そこから本を借りられるようになっていました。それで、そこから借りた本と学校で借りた本の冊数を合わせて表彰したりしていたら、ブーカスで持てないほど、20冊とか借りていました。だから、意欲づけにはとてもなるのかなと思っています。ただ、それが全部の学校でできるかということ、今のところ、なかなか難しいところがあるのかなと感じます。うまくそこが可能であれば、子どもたちは、どんどんブーカスであったり、図書館に行くようになるのかなと思うのですが、今、本校が大和の分館の近くにあるのですが、校区外になっています。そうすると、なかなか自分たちでは行けない。校区外には行ってはいけないとなっていますので。あとは、保護者の方が、いかに子どもたちを連れて行ってくださるかで、保護者の方に働きかけができないかと先ほどから思っています。それと、分館の方から例えば、定期的に読み聞かせ、今も読み聞かせボランティアの方がいらっしゃるのですが、新刊などが入った時に読み聞かせや読み語りなどしていただくと、子どもたちは図書館にあんな

楽しい本があるのだと思って子どもたちとのつながりができるので、そういうことが可能であれば楽しいなと思います。

会長 ありがとうございます。公共図書館の資料を、この本を子どもが借りたいといった場合には、学校図書館の方に回してもらってそこで貸し出しをするというやり方もあります。色々なやり方で、公共図書館を利用する、そういう習慣が子どもたちにしっかりとついていくと、大きくなってから良い図書館の利用者になってくれるのではないかと思います。そして、また、おっしゃったように、子どもの読書に関しては、ご家庭の姿勢が大きくものをいってくるようなので、家庭での読書のあり方に対しても何か図書館の方からあるいは教育委員会の方から働きかけができると、この辺りは改善するのではないかと思います。ご意見を伺ってありがとうございました。他にこの件について、何か。

委員 このボランティアの登録者の方、65人の方は何を大体なさっているのでしょうか。配架とかをなさっているのですか。27ページに出ています。

事務局 主には、対面朗読のボランティアの方です。代わりに本を読んで聞かせる方です。その方々が大多数を占めます。

委員 詰めていらっしゃるのですか。

事務局 土日は詰めております。ボランティアの方が交代で読まれています。お客様としては、数としては多くはないです。

委員 何を言いたかったかという、私は、今年の春から編集局に戻ったのですが、それまで、桜マラソンをやっておりまして、ボランティアを3,000人から4,000人くらい募集するのです。集まらないだろうと思って、どうしようかと考えながらやっておりましたけれど、意外にも、たくさん来られました。第1回大会から、今のところ、右肩上がりランナーから高い支持を得ています。その最大の要因は、ボランティアが良いと。高校生は素晴らしいと。おじちゃん、おばちゃんも元気でとっても良いと。これは素晴らしい評価をいただいています。大会の運営自体もそれなりにしっかりしていると思いますけども、佐賀のおじちゃん、おばちゃんを上手に使うのは良いのかなと思ひまして、お尋ねしました。私は、引込み思案の方が多いと思っておりましたけど、素晴らしいそうです、というのが一つです。それから、高校生の話が出ていたのは、印象としては、アイ・スクエアビルが、勉強できなくなって、こちらに流れてきている子が多いのではないかと、時々、2階を覗くと、確かにおっしゃった様に座りにくい環境はあるのですが、女の子が多いと思いますけど、こちらに流れてきているのかなと思っていました。もう一つ、コンシェルジュの話で、私、電話を取ったのですが、ある男性から、佐賀市立図書館に素晴らしい女性がいて、佐賀新聞で取り上げろと電話をいただきました。個人を取り上げるのは難しいですので、その方は正規職員なのか、そうでないのかよく分かりませんが、名前はおっしゃったのでメモがあると思うのですが、コンシェルジュは既にいらっしゃるのではないかと、話を聞いていて。そのおじさんがすごい売り込みだったのです、素晴らしい人がいると。だから、そういう人のやり方をみん

なに普及させるとか、熊本にいたのであれば、研修に行くとか、連れてくるとかそういうことでも良いかなと。それから、スタッフからの声はどういう声が上がってきているのかなと思いました。私、マラソンをやっている時に、農道とかで倒れられると狭い道も多いので、救急車が入れないところも結構あるのです。今、流行なのが「ドクターランナー」で、「医者」とか「看護師」とか着けて走っていますが、1年目が30~40人くらいで、2年目にスタッフから全国公募しようと話が出ました。医者や看護師の方は体力強化のために走っている人が意外と多い職業なのです。佐賀県内のお医者さんもたくさん走っておられます。ランナーを第一義的に助けてくださいと、その場合、6時間半以内にゴールできなければあなたの記録はなくなりますが、人を助けてくださいと。それで良ければ、参加費はただにしますということで、全国公募しました。それは、医療を担当した県の職員の方とか、その他のスタッフから提案がありました。多分、ほとんど例が無かったと思います。だから、スタッフの中に、多分良いアイデアを持っている者がいて、上手に汲み取ったら何かあるのではないかと、宝は足元にあるのではないかとという気がします。

事務局 素晴らしい女性というのは、おそらくそれはレファレンスコーナーがありますので、その職員だと思います。よくそういう声を聞きます。一生懸命、調べもののお手伝いをして、相手の望む回答をするというのが、レファレンスの仕事なので、本来の仕事をしているということです。それから、ボランティアについては、アンケートでも前回報告しましたが、意外と多いのです、しても良いというのが。ですから、そういう方々を今度は、こちらがお願いをして、しっかりと図書館の中身を知っていただいて、総合案内みたいな形で市民の協力を得るということも一つの方法かと、本当は市で独自で人を置ければ良いのですが、そうとばかりも言えませんので、そういう市民の力を借りるということも想定をして、今回、基本目標の中で謳っています。

委員 懸念な点が二つございまして、一つは何でもかんでもただで使って良いのかという申し訳なさともう一つは、うまく育てないと、ある施設でボランティアがしゃべり過ぎていけないとか、おせっかいが過ぎるとかそういう声も聞いたことがあり、難しい所もあると思います。ただ、佐賀のボランティアは素晴らしいそうです。

委員 私は、国際交流室で日本語のボランティアをしているのですが、先ほど、高校生がどこに流れていっているかとおっしゃいましたけれど、国際交流室が移って白山にございます。商工ビルの中です。そこにフリースペースがあって、丸いテーブルが5脚くらいあって、夕方になると高校生で一杯になるのです。そこは、大きな声でも話さないし、黙々と勉強されています。その隣では、交流室の事務の方が仕事で応対とかで使ってらっしゃって、入り乱れているのです。中央には、小さい子ども用の児童書が何冊か置いてあります。本当に狭いスペースですが、靴を脱いで、そこで一生懸命読んでいます。ああいう街なかのちょっとしたスペースというのが、こんなにも人を呼ぶのかと思って、聞きましたら、自分たちで勉強して、帰りますよと、午後8時まで使えるのですが、そこにも、少し流れています。

委員 それは新聞の記事になったのではなかったですか。その話、聞いたことがあります。

会長 ありがとうございます。大変、貴重なご意見だったと思います。この件につきまして、委員の皆様より何か他にご意見とか。

委員 先ほどのボランティア件なのですが、以前、茨城県に住んでおりました、そこで新しい図書館ができた時に、利用しているみんなで何かしたいということで、子どものコーナーの配架と困っている子どもを助けるボランティアグループを立ち上げたのですが、なかなかみんな忙しくなってしまうと、立ち消えてしまったのですが、そういうことができるのかなと思います。でも、そこで難しかったのが、図書館の方との関係で、どこまで自分たちでやって良いのか、図書館の方の仕事の邪魔をしないのはどこまでかとか、そこがとても難しかったので、もしそういうことをされるとなったら、図書館の方できちんと指導をなさって、ここまではお願いしますと線引きをしっかり作られたら良いかと思います。それと、図書の修理のことなのですが、その図書館ではなかったのですが、違う所に住んでいた方が、図書館に本の修理の講座があつて、そこで習ったことをボランティアとして続けていける人をお願いしますということで、定期的に修理の時間があつて、技術を身に付けたボランティアの方がやっていたということです。そういうことも、自分の家の本の修理にも、やり方を知っていれば助かると思うので、募集なさったら、興味がある方がいらっしゃるのではないかと思います。それから、もう一つ、「誰もが楽しめる場の提供」ということなのですが、ここは本当に、望んでいるところで、「友とする会」も子ども向けの行事を毎年やっているのですが、そこでのアンケートで、大体出てくるのが、子どもと一緒に飲食するスペースが欲しいということです。カフェに入るとお金もかかるし、子ども連れだとうるさかったりして、気が引ける方も多いので、飲食スペースが今、ちょっとしか無いので、テーブルが6つくらいで、それも、先ほどの学生たちと同じように、一つのテーブルに大体一人で座っているので、椅子はたくさんあるけれど、そこに相席良いですかと言えない雰囲気もあつて、そのテーブルが全部詰まっていると、仕方がないから外に行くしかないので、あその場所をもう少し有効に、大勢の方が座れるように改良していただければと思います。それから、玄関に入ってすぐに、結構広いスペースがありますが、あそこがうまく利用できていないというか、あそこにもう少し、図書館へようこそという雰囲気とか、今日もよくよく見てみたら、「悪人」の映画の古いパネルがいまだに貼ってあつて、あれは子どもにはそんなに見て欲しい映画でもないですし、かなり昔のですし、それから、右の方に倉庫みたいな、エレベーターみたいな収納スペースがありますが、そこが物置になっているのか、もう少しきれいに何かできないかと思いました。

会長 ありがとうございます。ボランティアの導入に関して、とても大事なことをご指摘いただいたと思います。線引きをきちんとしていないと、それでボランティアと図書館の関係がぎくしゃくしてきたりすると、折角の良い活動がダメになってし

まうこともあるかと思しますので。きちんと必要な知識を身に付けてもらうための研修をして、それから、協定書みたいなものを交わして、ここまでというようにしておくことも必要だろうなと思います。とても貴重なご意見だったと思います。この件につきまして、他にご意見、ご質問等が無いようであれば、本日の議事についてはここで終了させていただきますけれども、それ以外の件で、委員の皆様から、ご質問、ご意見等がありましたらお受けしたいと思いますが。

委員 細かいことになるのですが、ハンディキャップコーナーの、入ってすぐ右の方に、子どもの発達障がいとか、特別支援教育の本とかがたくさんありますが、興味があってその本を借りるのですが、初めはその本を教育のコーナーに探しに行ったら全然無いので、不登校とか引きこもりはあるのですが、よく問題になっている分野の本が教育コーナーに全然無いので、おかしいと思いつつ、県立図書館に探しに行ったら、県立図書館には一杯あったので、ここにたくさんあるのに、なぜ、市立には無いのだろうと思って、借りた本のタイトルが分かったので、検索したら、ハンディキャップコーナーにあるのだと気が付いて、そこに行ったら本当にたくさんの良い本がありましたので、あの本を教育コーナーに少しでも置いた方が、ハンディキャップとまでは言わないような障がいもあります、グレーゾーンというか、育てるのが難しい子どもたちとか、ハンディキャップに置いてしまうと何気なく自分の子どもについて本を探すときに教育のコーナーに行ったら全然無いと思う方がいるのではないかと思うので、少しでも教育に並べるか、それか、発達障がい、特別支援教育の本はハンディキャップコーナーにありますという案内を付けていただけたらと思います。ハンディキャップコーナーはとても良い場所なのに、私が利用する時は、まず誰もいないので、ちょっともったいないなという気もします。

会長 ありがとうございます。別置しているときは別置しているというサインを関連のところにしておく必要はありますね。よろしく願いいたします。

事務局 教育のところと障害福祉のところからと関係がある部分を持って来て、ハンディキャップサービスコーナーの中に置いているのですが、おっしゃられたように、若干、分かりにくい部分がありまして、表示はしているのですが、辿り着きにくいというところがありますので、あそこを今後、どう使っていこうかということ、色々検討している中で、できるだけ良い方法に辿り着きたいと思っております。恐らく、表示はあるとは思いますが、時間が経過して、色あせたり、分かりにくくなったり、置いている場所が悪かったりということがあるかと思しますので、それについては、再確認をさせていただきたいと思います。

会長 よろしく願いいたします。他に、ございませんでしょうか。他に無いようでしたら、この協議会は、これで終了したいと思います。では、進行を事務局の方にお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局 ありがとうございます。素案という形で、今日は議論していただきました。いくつか、ご提案もありましたので、その部分を反映した上で、再度素案については、少し作り直しをしたいと思います。それで、今日、意見が無くても、後でも結構で

すので、この部分についてはおかしいのではないかなどがございましたら、メールでもいただければと思います。来年、1月半ばくらいには、形にして、次回、最終の素案づくりとして固めていきたいと思いますので、1月中旬になりますが、ご出席をよろしく願います。それでは、本日はこれで終了させていただきたいと思います。大変お忙しい中、ありがとうございました。